



第24回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

変えて欲しいと
願う声がある限り
二人の挑戦は終わらない

2023年度ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア

助成先レポートVol.47

(社福)清水旭山学園 旭山農志塾

福祉でなく、本気の「蕎麦屋」を目指しながら工賃向上を

リレーコラム 夢をつないで

第29回

一般財団法人全日本ろうあ連盟
常任理事・事務局長
デフリンピック運営委員会委員長
久松 三二



ろうの子どもたちに夢を 東京2025デフリンピック



Profile

1954年生まれ。秋田県秋田市出身。大学卒業後、電機メーカーに就職、主に知的財産業務に従事。2006年に全日本ろうあ連盟に転職、2009年常任理事・事務局長に就任。日本障害フォーラムと共に障害者に関わる法整備、障害者人権擁護等の活動を行う。2023年4月からデフリンピック運営委員会委員長を兼務。

「デフリンピック」をご存じでしょうか？

国際オリンピック委員会（IOC）が認めている障害者の国際スポーツ大会は三つあります。一つは、皆さんがよくご存じのパラリンピックです。二つめは、知的障害のある方を対象としたスペシャルオリンピックです。三つめは、ろう者を対象としたデフリンピックです。

デフリンピックは1924年にパリで開催され、百年近い歴史があります。しかし、国内ではデフリンピックが開催されたことがないためか国内での知名度が約16%と低いです。2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）ではユニバーサルデザインやバリアフリーの理念が広く知れ渡りました。東京オリパラのこのレガシー（遺産）を継承し発展するために、2025年に開催される東京デフリンピックは情報アクセシビリティやコミュニケーションバリアフリーの促進を掲げ、共生社会の構築を目的にしました。

デフリンピックは21の競技種目があります。国内での開催は経験がないため、東京都や国内のスポーツ団体（NF）と協働して開催準備を進めます。他のスポーツ大会の陸上や水泳ではピストルを使います。デフ競技ではピストルの代わりにランプを用意します。自転車競技やサッカー等の団体競技では、笛の代わりに旗を用います。耳（聴力）の代わりに目（視力）を使ってスポーツ競技に参加する形をとることが大きな特徴です。空手やテコンドーのような格闘技では、会場全体を音声の代わりに大きな光で知らせる方法もあります。

国際スポーツ大会は多くの費用がかかるというイメージがありますが、私たちはできるだけ市民の皆さんと協働しながら手作りの大会をめざします。東京オリパラではコロナ禍により市民の観戦が叶いませんでした。私たちは市民が気軽に参加できることを求めており、特に多くの子どもたちに参加してもらいたいと願っています。デフ選手たちの活躍やデフスポーツの楽しさを知ってもらい、多くのろうの子どもたちに夢を与え、共生社会の構築に寄与したいと思えます。

応援をよろしく願います。

※障がいの表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真

第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の飯田大輔さん(右)、加藤裕二さん(左)のお二人。日本工業倶楽部の大会室にて

03 第24回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
変えて欲しいと願う声がある限り
二人の挑戦は終わらない

16 農福連携実践塾 第3回たまねぎ栽培塾
塾で栽培を学ぶのは何かといたら、工賃を上げるため

09 2023年度ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア

17 自然栽培パーティ 全国フォーラム2023 in 金沢
心から楽しい農業は実践できる！自然栽培の可能性を再確認。

14 助成先レポートVol.47
(社福)清水旭山学園 旭山農志塾(北海道上川郡清水町)
福祉でなく、本気の「蕎麦屋」を目指しながら工賃向上を

18 スワン工舎卒業生訪問39 株式会社しまむらさま
お客様に感謝されるのが一番！
商品管理から売り場づくり、接客もお任せ。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

第24回
ヤマト福祉財団
小倉昌男賞
贈呈式



第24回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
主催 公益財団法人ヤマト福祉財団

見逃された方は、
こちらから
視聴できます。



前列左から受賞された加藤裕二さんと令夫人 啓子さん、飯田大輔さんと同法人栗源事業部 事業部長の山根正敬さん。後列左から森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、山内雅喜ヤマト福祉財団理事長、長尾 裕ヤマトホールディングス(株) 代表取締役社長

変えて欲しいと願う声がある限り
二人の挑戦は終わらない



「小倉昌男さんからの学びが心の
支えになりました」と本を手にする
飯田大輔さん(上)と加藤裕二
さん



障害者週間の12月7日、第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を日本工業倶楽部(東京都)で開催しました。
「社会福祉法人福祉楽団理事長の飯田大輔さん」「社会福祉法人オリーブの樹理事長の加藤裕二さん」と受賞者のお名前が告げられると会場は盛大な拍手に。4年ぶりにお招きした歴代受賞者とお二人の関係者約100名が見守るなか、贈呈式が開幕しました。



「いいものを作っても販路がなければお金になりません。協力いただいているみなさんあつての受賞です」と飯田大輔さん

多くの先人たちも集い 新たな二人の受賞者を祝福

「ヤマト福祉財団30周年という記念すべき年のヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を、多くのみなさまと一緒に祝いすることができうれしく思います。今回受賞されたお二人は、福祉の人であり経営の人でもある。つねに新たな取り組みにチャレンジし、道を拓いて来た方たち



「福祉と地域の方、みんなで力を合わせ、経済を活性化させていきましょう」と推薦者の(社福)愛川舜寿会 理事長 馬場拓也さん



「お二人が手を差し伸べた障がいのある方は数えきれないほどに」とダイヤル・サービス(株) 代表取締役社長の今野由梨選考委員

です」と山内理事長が主催者挨拶を行いました。本賞は、障がいのある方の仕事づくりや雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに功績のある2名を、毎年厳正な審査のもとで選考しています。選考委員のダイヤル・サービス(株) 今野由梨代表取締役社長は「飯田さんは、福祉を売り物にしない経営哲学で新しい時代の福祉を形にする方。加藤さんは、40年も障がいのある方の就労支援、自立支援を続けられている方です」と二人を讃えました。



「なにか協力してほしいことがあれば、いつでも私たちの千葉の仲間にお声がけください」とヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長



「障がいのある方がよりやりがいを感じられる職場を、当社でもつくっていききたい」とヤマトホールディングス(株) 長尾裕代表取締役社長



「私たちが農福連携などで障がいのある方たちの活躍の場を広める支援をしていきます」と厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 辺見聡部長

障がいのある方と施設が 地域経済をまわす主役に

お二人は共に、千葉県の障がい者福祉に携わっていますが、最初からこの世界を目指したわけではなかったという意外な共通点も。

飯田さんは、急逝された母親の遺志を継ぎ、学生時代に高齢者介護を行う(社福)豊和会(現・福祉楽団)を立ち上げます。学んでいた農学部とはまったく無関係の世界でした。そしてある日偶然、障がいの者の給料の実態を知ります。衝撃を受けた飯田さんは、家業の養豚業で「稼げる仕事」をつくることを決意。2012年に株式会社恋する豚研究所とA型事業所栗源協働支援センターを設立します。

「飯田さんと出会ったのは、福祉のイメージを変える若い経営者の育成を狙った厚生労働省主催の集まりでした」と推薦者の(社福)愛川舜寿会理事長の馬場拓也さん。

「これからは、福祉が主役となり、地域コミュニティを形成し、経済をまわしていくべきだと飯田さんの発言は、とてもセンセーショナルでした。以来、私は彼の背中を追い続けているんです」と馬場さんは話します。

利用者さんのためなら

周りの非難など気にしない

「日本社会事業大学を選んだ理由は、学費が国立大並みに安かったから」と当初は福祉に特別なこだわりを持っていなかった加藤さん。しかし、進行性筋ジストロフィー患者さんとの出会いで気持ちは一変します。静岡の障がい者施設で働いた後、故郷・千葉に戻り自宅の一室に小規模作業所オリーブハウスを設立。障がい



「もう70歳になりますが、次の世代になにか残せる仕事をもうひと働きしたいですね」と加藤裕二さん

のある方が自立するために、少しでも多くのお金を稼ぎたい」とホームメイドクッキーの製造販売を開始します。

「自立支援法が施行されるもつと前でしたから、障がいのある方が駅前でクッキーを売る姿を見た世間も他の事業所も加藤さんを非難したんです。でも加藤さんは負けなかった」と推薦者の(NPO)千葉県障害者就労事業振興センター理事長の岡田義之さん。

喜んで働く利用者さんのために立ち止まってしまうと、加藤さんは給料を増額し続け、千葉県初のA型事業所も設立します。

「そんな加藤さんの活躍も陰で支える奥様の



「加藤さんにはもっと頑張っていたきたい」と推薦者の(NPO)千葉県障害者就労事業振興センターの理事長 岡田義之さん

存在があればこそです」と夫婦二人三脚での活動を讃えました。

小倉昌男さんの言葉が 私たちの原点であり、心の支え

続いて山内理事長が、お二人に正賞の兩宮淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、副賞賞金100万円の目録を贈呈。飯田さんの事業運営をつねに支えて来られた山根正敬事業部長、そして加藤さんの奥様には花束を手渡しました。

さらに3名の来賓の祝辞をいただいたあと、いよいよ両受賞者の挨拶へ。お二人は、それぞれ



れ小倉昌男に影響を受けて来たと話します。

「私は小倉さんの著書を読み、障がいの給料が1万円という事実を知った。すべてはここから始まっています」と飯田さん。加藤さんは「私が周りの声に挫けそうになった時、セミナーに参加。そこで、福祉施設こそ儲けなさい」との言葉に勇気をもらいましたと挨拶。「だから本受賞が夢のようです」と口を揃えます。

そして最後に「私たちの商品をぜひお歳暮に」と商売気と洒落つ気ある一言も。

「福祉こそ儲かる経営を」との小倉昌男の考えをそのまま実践するお二人を応援して、会場は温かい拍手に包まれました。



「美味しい」を科学的に実証 福祉ではなく品質でアピール

社会福祉法人福祉楽団 理事長 飯田大輔さん

11月15日、千葉県香取市にある(社福)福祉楽団が経営するレストラン&商品加工所「株式会社恋する豚研究所」を訪ねました。

福祉施設ではなく
株式会社の名と品質で勝負

サツマイモの産地・香取市に広がる農地の間を縫うように進み続けると、突如お洒落なレストランが現れます。ここはブランド豚のしゃぶしゃぶ、ハンバーグ、ハムなどが売りで年間15万人ものお客様が訪れる人気店。でも大半のお客様は、障がい者施設だとは知らずにやって来ます。

「お客様は美味しいので来店する。福祉施設とか関係ありませんから」と飯田さんはさらりと話します。

ここを開設したきっかけの一つは福祉楽団で高齢者のデイケアサービ

スの送迎などを行う際に当事者の切実な声を聞いたからでした。

「障がいがある子どもにはどこにも居場所がない。私がいなくなったらどうなるのか」と肩を落とすお年寄り。「そんな姿を見てしまったらもう人任せにはできない」と迷わず動き出してしまおうのが飯田さんです。

より高い給料を支払える事業と障がいのある方が働ける仕事環境を。この両立に、叔父さんが経営する養豚場の良質な豚肉でオリジナルブランド商品を製造販売する事業を立案します。しかしいくら良い商品も売れなければお金にならない。飯田さんはできる限り多くの百貨店やスーパーなどの営業に奔走しました。

「社会福祉法人の名刺だと余計な説明をしなくちゃいけない。そんなもの抜きに本物の品質でしっかり戦えると確信していたので株式会社を立ち上げ、名刺を作ったのです」。

さらに飯田さんは「美味しきは主観的なもの、科学的に説明しよう」と日本大学に協力を依頼し、グルタミン酸やオレイン酸など旨味成分の数値を計測し取引先に報告。また、食べ方も提案するなど、他社とは異なるアプローチで差別化を図りました。

働きたい仕事があるから
いろんな方が集まって来る

恋する豚研究所の1階は精肉・加工の工場になっています。そこは

オープンなガラス張り。でも他の福祉施設の「利用者さんの働きぶりを地域の方に見てほしい」との狙いとはちよっと違っているようです。

「これだけ見事な肉を、熟練した技術を持つ者たちが、最新の製造機械と衛生管理設備で安心して食べていただけるように商品化している」とクオリティをアピールしています。

「生産者の顔を見せるのはとても大事。一方、我々はレストランでこんな人がうれしそうに食べているとわかるので、それを農家に伝えれば意欲も増します。この橋渡しを障がいのある人の仕事づくりを通じてできたらいいなと思っています」。

飯田さんは、障がいのある方への仕事の提供の方法も独特です。

「例えばレストランの接客、ハムのラベル貼り、食器の洗浄など仕事内容で働く人を募集します。だから精神とか知的とか障がいの重い軽いつか関係ない。自分がやりたい仕事があるからここに集まるんです」。

やがて屋外で汗を流して働く方が適した人もいると気づくと、飯田さんは、地域の方が人手不足で困っていた畑作業、山林の伐採や薪づくり、木工の仕事なども開始しました。

「地域には、我々ができる仕事はまだたくさんあるはず。利用者さんの希望や得意な力を活かせる多様な仕事をもっと開拓していきますよ」。



「利用者さんに包丁やチェーンソーを扱わせていると驚く施設関係者がいますが、それは利用者さんが使いたいから。それをどう支援するかが我々の仕事ですよ」と飯田さん。



「福祉施設はもっと稼いで良い」 そう信じる仲間とこれからも

社会福祉法人オリーブの樹 理事長 加藤裕二さん

11月14日、「(社福)オリーブの樹」の利用者さんたちが働く千葉県千葉市に展開する複数の事業所を訪ねました。

などを開始しました。

「やがていろいろな障がいのある方が集まって来たんです。じゃあもっとたくさんのお仕事が必要だ、売上も伸ばし、より高い給料を目指していきましょうとなりました。なにかを必要とする人たちがいて、それをみんなで力を合わせ一緒に作り出していく。福祉の仕事はその繰り返しです」。

小規模作業所のころは、お金儲けとすぐに批判されましたが、加藤さんは「お金は障がいのあるなしに関係なく大切だ」と公言しました。

「小倉さんの『稼ぐことは良いこと』との教えが私の背中を押してくれました。それに私は、ひよっこりひよたん島のドンガバチョみたいな、良いと思ったことは、つい口にしてしまう性格で(笑)」。そして、その言葉に共感した人たちがボランティアで力を貸してくれました。

「事業の柱である本場アメリカ仕込みのホームメイドクッキーもそんな仲間のアイデアです。私は本当に人に恵まれています」と加藤さん。

ちなみに「友愛」を意味するオリーブの事業所名も仲間の一人が考えたもの。加藤さんが「ガバチョの家」にしようとしたと聞き「オリーブの樹」で良かったと職員のみなきは笑います。

コロナ禍のピンチも 若い職員と共に切り抜ける

オリーブの樹のクッキーは人気を

呼び、利用者さんの給料は約7万円に増え、千葉県で高い給料を支払う事業所の先駆けとなりました。その評判により多くの利用者さんが集まるとさらに事業所を増設。他では取り組んでいなかったアイスクリーム、またお弁当と新事業を展開します。

「夏はアイス、冬はクッキーの繁忙期。そしてお弁当は一年中安定と、利用者さんの仕事が増えずパランスが取れた事業体制ができました」。

加藤さんはグループホームも10カ所開設。さらに精力的に動き、千葉県内のA型事業所が力を合わせて活動できる組織作りにも尽力。現在は全Aネットの副理事長も兼任しています。ところが2020年、突如コロナウイルスが蔓延。自粛生活で商品が思うように売れなくなりました。

「利用者さんも常時働くことができず、生産も不確かになり本当に苦しかった。そんなとき、若い職員がお取り寄せブームに促されていこうと、通販体制を整えてくれたんです。おかげでクッキーの売上は回復し、全体で巻き返しが図れています」。

次世代へのバトンタッチも考える加藤さん。「でもその前にまだやる必要がある。まだ実現できていない障がいのある児童を守る新しい施設を、ぜひ開設しよう」とみんなに呼びかけているんです。加藤さんの挑戦は、まだ終わりそうにありません。

利用者さんの喜ぶ顔を もっとたくさん見たいから

ホームメイドクッキー、お弁当、アイスクリームの製造販売と、加藤さんが立ち上げた各事業所で働く利用者さんたちは「毎日、仕事に行くのが楽しみ」と口を揃えます。

「あんな笑顔を見せられたら、次はもっと良いものをもっと作りたいです」と加藤さん。この姿勢は約40年前に利用者さん4名の小規模作業所を開設した時からずっと変わっていません。最初は地域の重度の障がいのある人たちが活動できる場・働く場をと巾着袋作りや廃品回収



「給料が上がると、ご家族が利用者さんを見る目も変わり、本人もますますやる気になるんです」と加藤さん。

職員、利用者さんの頑張りと大切な取引先に感謝します



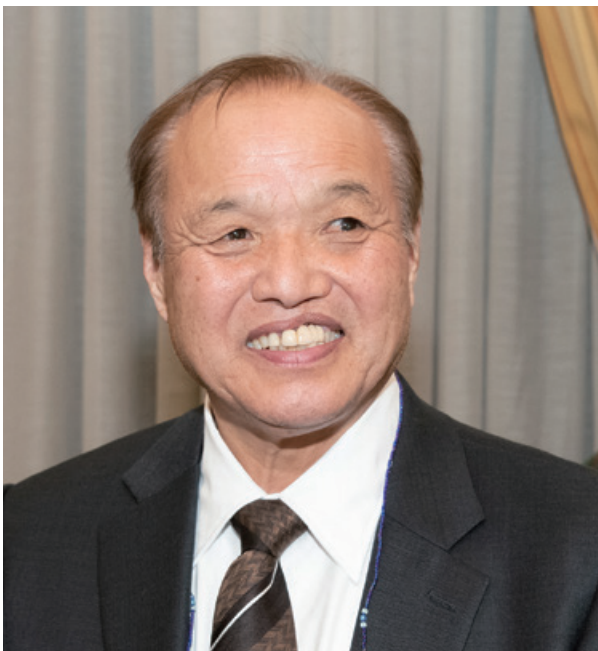
社会福祉法人福祉楽団
理事長 飯田大輔さん

未来を担う子どもたちと里親への新たなサポートも

こんなにたくさんの方に祝福いただくことに慣れていないので、どうも照れてしまいます(笑)。
本賞は、職員と利用者さんが頑張ってきた成果です。そして、大切な取引先のみならずと出会えたからこそ心から感謝しています。
最初は取引先のみならず福祉施設であることはお伝えしていませんでした。でも次第に法人のことがわかって来ると「面白いことをやっていただくと頑張ってください」とより応援いただけるようにも。私たちが福祉を売りにしようとしていたら、こんな信頼関係は築けていなかった

たかもしれませんね。
現在、利用者さんの何人かは月給10万円を超えましたが、全体の平均月額給料はまだ少ない。利用者さんの仕事へのアセスメントと利益率を上げるさらなる工夫を続けることが、私のミッションです。
活動するなかで、犯罪に巻き込まれてしまう子どもたちの中には、障がいのある子どもが多いことも知りました。日本の未来を支えるのは子どもたちなので、これだけ良いのか。現場の方から、里親の支援も必要だと聞きました。現在、これら課題解決の具体的な計画を立てているところです。知ってしまったからにはやるしかない、ですよね(笑)。

苦しい時代と一緒に歩んだ仲間とこの場で喜びを共有したい



社会福祉法人オリーブの樹
理事長 加藤裕二さん

1984年 自宅を開放し小規模作業所 オリーブハウスを設立。1986年 クッキー、ケーキの製造・販売を開始。2000年に(社福)オリーブの樹設立。2001年 オリーブハウスでアイスクリームを製造販売。2005年 授産施設 はつらつ道場で弁当・給食を製造販売。2007年 ファーストオリーブ、オリーブハウス、はつらつ道場を就労継続支援A型に移行。2009年 就労継続支援B型 花まんまを設立。2019年 はつらつ道場、ファーストオリーブをオリーブ轟に移転しA型事業を再編。現在、(NPO)就労継続支援A型事業所全国協議会 副理事長、(NPO)ちばAネット理事長なども兼務。

福祉の網の目から守れる子どもたちを守る体制を

「40年長く頑張ってきたね」となんだか小倉さんに言っていただけでいいように、本受賞をとてもうれしく思っています。
私がここまで長く頑張ることができたのは、障がい者施設を世間が認知してくれない苦しい時代から一緒に苦楽を共にしてくれた仲間がいたからこそ。縫製の自主製品ではこれ以上利用者さんの給料を上げていけないと頭を抱えていたとき、起死回生となったホームメイドクッキーを提案してくれた、そんな戦友にも本日この会場に来ていただき、喜びをわかち合っています。
いまは昔と違い福祉施設がどんどん増えています。でもその網

の目から漏れている方とかボーダーラインにいる人たちがたくさんいるのも事実です。そこから犯罪に走る、いわゆる触法の障がい者と言われる人たちが生まれています。そんな道に走らないように防ぐには、子どものうちからちゃんと支援・養育しないといけない。そういう子どもは、虐待されたりイジメにあっているケースも多いので、しっかりと守ってあげられる障がい者児童施設を作れないかと、働きかけているところです。
飯田さんと私はアブローチ方法が違うかもしれませんが、思いはきっと同じ。今後も私なりのやり方で、発達障がい地域から阻害されている子どもなどの問題に取り組んでいきます。

地域と繋がるボランティア

財団ではヤマト運輸労働組合と連携し、ヤマトグループ社員が地域の障がい者施設と繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。3年目の今年度は、農業編として自然栽培パーティに参加する鹿児島県、福島県の施設で実施。地域の福祉活動に貢献する「ヤマト繋がるプロジェクト」は、昨年度に引き続き、ヤマト運輸労働組合青年部のみなさんと横浜の障がい者施設の利用者さんに参加していただきました。

地域福祉活動編



農業編



2023年10月20日

念願の晴天！
桜島もくつきり
サツマイモ大収穫
鹿児島支部

ワーカーズコープ企業組合
労協センター事業団
国分地域福祉事業所ほのぼの
(鹿児島県)



10月20日、ヤマト運輸労働組合鹿児島支部のみなさんが、サツマイモの収穫ボランティアに集まりました。鹿児島空港から約1時間ほどの場所にある鹿児島県霧島市の障がい者施設ほのぼのです。

6月にほのぼので行ったジャガイモ収穫は大雨でしたが10月は絵に描いたような秋晴れ！ 噴煙を上げている桜島もくつきり見えています。

自然栽培なので農薬は一切使っていません。「前年の課題を工夫して、畝を広く、高くして水はけを良くするため、溝を作り、畑に水道設備がないため、毎日じょうろで水やりをしました。草取りも頑張りました」と支援員の久木元さん。その甲斐があつて、サツマイモ一つひとつが大きく育ち、収穫量も300kgとなりました。何と前年の3倍です。

ほのぼのではいつもなら収穫に1週間かかるところを、「ご家族も含めた鹿児島支部のみなさん30人とほのぼのの利用者さんが一緒に作業をして、半日で収穫を完了。

鹿児島支部の赤崎執行委員長は「収穫を楽しむことができました。この交流を鹿児島支部として定期的の実施できれば良いと考えています」と挨拶。組合員のみなさんは収穫したサツマイモをいっぱいお土産に持って、ボランティアが終了しました。



ワーカーズコープ企業組合
労協センター事業団
国分地域福祉事業所ほのぼの

鹿児島県霧島市国分上小川657-4 TEL.0995-71-0178

ほのぼのは、訪問介護、学童保育、放課後デイサービス、就労継続支援B型などさまざまな事業を展開しています。約1haの圃場を、自然栽培でお米や野菜を作っています。

2023年10月28日

タマネギの
定植の早さに、
プロもビックリ！
郡山支部

社会福祉法人こころん
(福島県)



福島県泉崎村のこころんで行われたのは、タマネギの苗を定植する作業でした。

「マルチの穴に指の第2関節くらいまでの深さまで、苗を押し込んでください。浅いと倒れます！」と、こころんの職員から説明を受けて、作業がスタートです。

9月に蒔いた種が苗に育ち、ようやく定植。マルチに開けた穴に、1本ずつ植えていきます。作業を行っているのは、郡山支部のみなさんとこころんの利用者さん約40名。苗を片手に持つてしゃがんだまま、動いて行くのは、かなり辛い体勢です。「いつも使っている筋肉と違うから、明日が怖い!!」といったながら、1時間強で用意した苗の定植が終了。6月のこころんで行ったタマネギの収穫もパワー全開でしたが、植え付けの早さにもビックリ。急遽、オクラ畑で、収穫が終わったオクラを畑から抜く作業をお手伝いしました。

郡山支部の本郷委員長は、「前回、収穫をお手伝いしたタマネギは、本当に美味しかった。農薬を使わない栽培で安心していただきました。これで、私たちこころんとの点が線に繋がったので、この繋がりを面にもっと大きく広げていきたい。これからも情報を共有しながら、子どもたちの楽しい思い出にもなるよう、この活動を続けていきたい」と話されました。



社会福祉法人
こころん

福島県西白河郡泉崎村字川畑37-1 TEL.0248-53-5568

1.5haの圃場でお米、約50種類の野菜を栽培、こころん養鶏場では平飼いのニワトリが生む「ここたま」の生産販売。直売&カフェ「こころや」では、野菜などの販売や、店内のカフェではこころやにある食材を使ったランチやスイーツも楽しめます。

なるこ・DE・ダンス ～ NARUKO部presents ～

連携団体：東戸塚地域活動ホームひかり
とつか区民活動センター
(11/8 会場：東戸塚地域活動ホームひかり)



ハートの花束を作ろう！

連携団体：カプカプ川和
都筑区子育て支援センター Popola
(11/19 会場：カプカプ川和 喫茶、都筑区子育て支援センター Popola)



参加して、共感して、ともに笑って
ボランティアの輪を広げていこう！

組合青年部と大学生がコラボ

障がいのある方やお子さんたちと楽しく交流する地域イベントが横浜市内で実施されました。

企画を考えたのは、ヤマト運輸労働組合青年部のみなさんと大学生ボランティアの方々です。これは「ヤマト繋がるプロジェクト」と題する企画で、今回で3年目となりま

す。

プロジェクトは昨年5月から始動。6月からは3つの企画チームに分かれて、具体的なアクションを始めた。

アイデア出し、課題抽出、解決案の策定など、各チームで青年部のみなさんと大学生の方々、受入れ先となる地域の福祉団体等とコミュニケーションを図りながら、イベン

トの内容を固めていきました。

今回は11月に先行して実施された2チームのイベントについてご紹介します。

ダンスやアートを題材に、障がいのある方やお子さんたちと楽しくて心に残る時間となりました。

残る1チームが企画する「みんなと一緒にすごろくでGO!!」は、本年1月に実施予定です。

ヤマト繋がるプロジェクトとは？

新型コロナ感染症の広がりきっかけに始まった同プロジェクトは、オンラインも活用したボランティアイベントをゼロから企画する試みです。5類に移行した2023年も、多くの気づきが得られる貴重な場として継続実施されました。

これまで同様、社会人と学生がつながり、ともに地域の福祉に関わっていく。そうした人の輪を広げていくことが狙いです。

同プロジェクトは、NPO法人アクションポート横浜とのコラボレーションによって実現しました。

NPO法人アクションポート横浜

若者とさまざまな団体をつないで街を盛り上げる活動をしています。

大学・地域のNPOと連携した「NPOインターンシップ」、若者と地域とのパートナーシップ活動を応援する「横浜アクションアワード」などを展開しています。

企画チームからメッセージ

【学生たちの声】

- 予定通りにはいかないことだらけで進んだ企画運営にはなりましたが、参加者に楽しい思い出を提供できて良かったです。
- 障がい者施設での初ボランティアに緊張しました。さまざまな人と交流する中で、楽しそうにする利用者さんの姿に、参加して良かったと思いました。

【ヤマト労組青年部の声】

- 利用者さんの楽しそうな笑顔が忘れられません。貴重な経験と楽しい時間を過ごすことができました。
- 思い思いに鳴子を装飾したりダンスを楽しむ様子が画面から伝わってきて、ZOOM参加の私も笑顔が絶えないイベントでした。

連携・受入れ団体からのメッセージ

- 平日でしたが沢山の学生やヤマト社員の方が来てくださいました。全国からリモートでの参加は、利用者の皆さんも興味津々。何よりみんなで鳴子作りやダンスを楽しんでいたことが嬉しく思います。
- 東戸塚地域活動ホームひかりの温かな受入れ態勢、企画運営チームの頑張りを見守らせていただきました。皆が笑顔になる素敵なご縁の場に参画でき感謝です！



まず始めにみんなで、踊りに使う「なるこ(鳴子)」を、思い思いに色づけして装飾。その後は完成した「なるこ」を手にダンスを楽しみました。

ペンやシール、マスキングテープなどを使って飾られた「なるこ」は、それぞれの個性が光る打楽器となり、「カタチに残る思

い出」にもなりました。

特別に用意したサビメドレーに合わせて「なるこ」を鳴らして踊るなどダンスタイムも盛り上がり、サブプライズで戸塚区のマスケットキャラクター「ウナシー」も登場。最後はウナシー体操を一緒に踊りました。

企画チームからメッセージ

【学生たちの声】

- エネルギッシュな方々に揉まれながら、試行錯誤した企画。連携施設さんの温かさが伝わり、当日参加者も含め「みんなで」作り上げた作品とイベントになりました。
- ボランティアも子どもと接するのも慣れていなくて緊張しましたが、子供たちも楽しそうでも私も嬉しかったです。また機会があれば参加してみたいと思います。

【ヤマト労組青年部の声】

- 夏のカンパ、スワンのケーキの大切さを感じることができました。日頃できない経験をさせていただき、ありがとうございました。
- ボランティア活動を通して出会えた方々と、一つの作品を作ることがすごく貴重だと感じました。良い経験ができました。

連携・受入れ団体からのメッセージ

- 終了時刻を過ぎてもお喋りは終わらず、笑顔があふれ、なかなか帰らない。その様子に「大成功！ お疲れさま！」の気持ちに。この出会いや経験が、これからの人生への何かきっかけになったらうれしく思います。
- 大人も子どもも、学生もヤマトさんもスタッフも、夢中になっている顔が印象的なイベントでした。繋がること、相手に興味をもち対話することの素晴らしさを体感しました。



参加者一人ひとりが、花の形をした型紙に、「つながる」をテーマに、思い出や気持ちをお絵かきしてもらいました。

完成した「お花」は、用意した大きな透明シートにハート型に配置し貼っていきま

ました。

ハート型にくりぬいた大きな額(台紙)とあわせれば、片面から見ると大きなハート型の花束に。反対側から見ると、花に

お花の事前作成には、東戸塚地域活動ホームひかり、とつか区民活動センター、チューリップ、本牧和田地域ケアプラザにもご協力いただきました。

込めたメッセージが読める仕掛けです。本イベントの後には「フォトスポット」を用意するなど、サブ企画も充実させ、当日参加できなかった人も足を運んで、施設や地域と繋がるきっかけとなるよう工夫しました。

福祉でなく、本気の「蕎麦屋」を目指しながら工賃向上を

十勝平野の西部に位置する清水町。「明るく清らかな川」を意味するアイヌ語「ペケレバツ」の意識が町名の由来です。自然に恵まれながら、国道や高速道の要となっており、道東の玄関口とも言えます。同町で、そば事業に挑んだ「旭山農志塾」を訪ねました。

Data

社会福祉法人 清水旭山学園 旭山農志塾(北海道十勝郡清水町)
2021年度障がい者給料増額支援助成金(300万円)
助成内容：大型そば脱皮機、電動石臼製粉機(4台)、振動2段ふるい機、他購入資金
就労継続支援B型20名・生活介護20名
売上 6,800万円/月額平均工賃(B型) 27,930円(2022年度)



そば粉に水分を与える「水回し」作業。十割そばの味わいを生かすには、水が多すぎても少なすぎてもダメ



旭山農志塾施設長の今滝貴行さん



整備した電動石臼製粉機。ゆっくりと石臼を回し挽くことで、熱に弱いそば粉にしっかりと風味が残ります。挽き立てを製麺できるのは、製粉機が自前だからできること

そば工場に欠かせない大型そば脱皮機、電動石臼製粉機(4台)、振動2段ふるい機、麺体延ばし機の整備費の一部に、当財団の助成金が充てられています。

工場で生産するのは、道産にこだわった十割そば。加える水の量は「これは企業秘密です」と

力強く、リズミカルに。手のひらを巧みにつかいて「玉をこね上げます。額に汗も滲む大変な作業ですが、機械練りとは味わいに雲泥の差が出ます。

1日250食以上を4名の利用者さんが手ずから練るといって、そば工場を訪れたのは11月初旬の北海道。日高山脈のふもと、豊かな自然と伏流水に恵まれた清水町で、旭山農志塾はそばの製造・販売を、あらたな事業の柱に育てようと奮闘しています。

2021年に旭山農志塾はそば工場を本格稼働させるとともに、その翌年6月には十割そばの店「農志塾」を開業しました。

工場につづき、そば店もオープン

そば工場に欠かせない大型そば脱皮機、電動石臼製粉機(4台)、振動2段ふるい機、麺体延ばし機の整備費の一部に、当財団の助成金が充てられています。

工場で生産するのは、道産にこだわった十割そば。加える水の量は「これは企業秘密です」と

責任者で施設長の今滝貴行さん。

電動石臼でゆっくりと挽いた、挽き立てのそば粉をすぐに加工し冷凍しているので、しっかりと風味が感じられます。そば店「農志塾」で提供するほか、オンラインストアを中心に販売しています。

旭山農志塾は、1970年代から活動をつづける清水旭山学園の通所部を母体に2019年に発足しました。現在は生活介護と就労継続支援B型を各20名の方が利用しています。

清水旭山学園内に事業所を構える旭山農志塾ですが、清水旭山学園本部の土地は「借地込みの総面積で約15・9ha。じつに東京ドームがすっぽり3個」入って余ると、今滝さん。北海道ならではのスケール感です。

事業環境に思わぬ向かい風

敷地内には清水旭山学園の入所施設のほか、さまざまな事業施設が点在しており、旭山農志塾はそこで一般廃棄物処理場や養鶏場、畑を使った事業などを行っていました。



石臼で挽いたそば粉は、振動2段ふるい機にかけることで、よりきめ細やかに



できあがったばかりの十割そば



2022年6月にオープンした、十割そばの店「農志塾」



「冷凍十割そば(6食セット)」は、そばつゆ付きで、オンラインストアを中心に2,160円で販売



17haあるすべての圃場で有機JASを取得。写真はカボチャの収穫



「お客様に美味しい蕎麦を食べていただきたいから」お店のスタッフも一丸で頑張っています

「食品残渣、いわゆる食品ロスを地域の学校や各企業から集めて中間処理機にかけて、鶏の餌にしていたんです」

鶏が産んだ卵はスーパーに卸し、鶏糞は畑の肥料になりました。その取り組みは循環型リサイクル事業として表彰もされました。ですが、事業は曲がり角にあると今滝さん。

「近頃はどちらでも無駄をなくして、食品ロスを減らすよう努めていますし、コロナ禍で廃業した取引先などもあって、食品残渣が少なくなり、収入も減ってきました」

そこで期待を寄せるのが、そば事業というわけです。昼夜の寒暖差が大きい北海道は、そばの名産地が各地にあります。これまで旭山農志塾も少量のそばを栽培・収穫。製粉を外部に委託する格好で、試験的な販売をしてきましたが、そば工場が完成する以前は、

「量産もできなかったですし、アレルギーの関係で、そばを扱ったあとは加工場も壁から全部、消毒しないとダメでした」

いつかは「十勝清水産」で…

十割そばの店「農志塾」は、道内の大動脈・国道38号と274号が交わる辺りに出店しました。お客様は地元のみならず札幌、旭川、苫小牧…と幅広く、新そばの時期やゴールデンウィークで150人ほど。もともとも多い日で約200人の来店を記録しました。

「うちの法人は飲食事業の経験がなく、最初は不安だらけでした」と今滝さん。

天がらの揚げ方一つ取っても、ホテルの料理長や料理店さんの指導を仰いだそう。「さまざまな方の尽力あって、運営できています」と感謝し

ています。

多くの支援と職員、利用者の頑張りがあった、電動石臼製粉機の導入後は、製粉の外注費を節約できたうえに品質も安定し、6食セットのネット販売も3・5倍になりました。今年度決算はまだこれからですが、旭山農志塾の事業収入約7,000万円のうち、そば事業で1,800

万円超を見込み、事業として一番大きかった一般廃棄物収集を抜く気配です。とはいえ、燃油費が高騰のあたりも厳しく、利用者の給料は現状維持が精一杯で、アップするにはなお一層の仕掛けが必要なのも事実です。この先の目標について伺いました。

「いまは『道産』そば使用を謳っているのですが、いつかは『十勝清水産』100%にしたいです」と今滝さん。

圃場5haに作付して、秋に収穫したそばは約3・4t。しかしそれでは足りず、同じ品種「ラノカオリ」のそばを、よそから5tほど仕入れていきます。

十割そばの店「農志塾」で提供している食材は、海のものであるエビ以外、カボチャやトウモロコシなど、ほぼすべてを有機JAS認証済みの自家圃場で収穫したものばかり。いずれはそばも全量を自前で賄うのが今滝さんたちの夢です。

「障がい者の方々が働いていることがアピールになる時代ではありません。だから本当に蕎麦屋として勝負して、おいしいから食べに来たって言われたい」。個性を打ち出して、さらに愛されるお店へ。十割そばに真摯に打ち込む姿が、そこにはありました。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 42

ヤマト運輸労働組合 道東支部執行委員長 佐藤 浩幸さん



手を抜くことなく、一生懸命仕事をされている姿に感動

実際に訪れて、働いている姿を拝見し、利用者の方とお話しさせてもらって、度肝を抜かれたというか、すごく勉強になりました。

そば粉を練る作業も熱心に教えていただいて、ただ押すのではなく、空気を抜きながら最終的に菊の花の形になるよう練っていくのだとか。自分でもやってみて、汗だくなるほどの重労働でした。

メンバーのみなさんが一つのチームになって、手を抜くことなく一生懸命、仕事をされている。そして、その先に働く喜びや楽しさがあることがよく理解でき、感動しました。

農作業など、人が集まらないとできない作業があることも伺いました。労働組合としても、ボランティアといった形でお手伝いしていきたいと思



塾で栽培を学ぶのは 何かと言ったら、工賃を上げるため

たまねぎ栽培塾の最終回の研修は、第2回研修時に種蒔きをした苗の定植です。技術だけでなく、農福連携実践塾の学びの目的を改めて確認する研修となりました



細かい作業のこだわりが 工賃に繋がる

9月に開催した第2回たまねぎ栽培塾で種蒔きを行った苗が発芽し、30cmくらいの高さに育ちました。最後のテーマは「定植」です。

苗畑からホークを使って掘り出し、定植用の畑へ。ピンと張ったマルチを葉の花の利用者さんが、定植用穴開け機(ロケット)を使って開けていきます。小さい手持ちのコンテナに水に濡らせた苗をいれ、圃場に一本ずつ手植えで定植。植えたあとにはマルチの穴をふさぐように土をかけていきました。土をかけるのは苗を土に活着させるためです。

マルチに小さい穴を開ける、根を湿らせる、定植のあと覆土するのは、作業のこだわりです。「やらなければならないことに、こだわりを持って実践しないと工賃に繋がらない」と塾長の小淵さんが話します。

工賃をいくりにするかに応じた 売上目標、栽培計画を

たまねぎ栽培塾締めくくりの成果発表では、「発芽が遅いのであとから冠水した」、「苗が黄色くなったのは水はげが悪いせいかな?」、「日陰で温度が低くなっているところ



第3回たまねぎ栽培塾

塾長(社福)ゆずりは会 葉の花
管理者 小淵久徳さん

ろは苗の育ちが良くなかった」など、塾生は成果と共に課題を報告。苗作りに初めて取り組んだ事業所もあり、それぞれの地域の気温変化や土の質の違いなどで、苗作りがうまくいかない事業所も多くなりました。

講師の林さん(ぶどう栽培塾塾長)は、「温暖化も冷え込みも激しく、昔から言われてきたことが通用しなくなっている。農業は気象条件なども含めて転換期とも言える。失敗してもかまわないので、新しいことを考えてやっていく必要がある」。

「温度の記録、気候の変動など、自分の農業を記録することが大事。記録をつけることでいろいろなものが見えてきて成長に繋がる」と熊田さん(農福連携塾統括塾長)。

たまねぎ栽培塾の小淵塾長は、「1反いくら取らなくてはならないから、何反植える、1玉いくらで売る」という覚悟でやらない限りは、いつまで経っても「ここが失敗だったからうまくいかなかった」という言い訳になっていくと思う。言い訳すればするだけ利用者さんの工賃にならない」と塾生に語ります。

道具の意味を知り、あるもので済ませるのでなく、計画的に進む中で経費をかけても道具や機械を導入できる売上を目指していかなければなりません。

「塾で栽培を学ぶのは何のためと言ったら、工賃を上げるため。この経験を活かしてぜひ利用者さんのためになる農業を実践していただきたい」。

最後に、「みなさんと繋がれたのは大きな財産。利用者のためになると気づくと、自分たちも楽しくなる、そんな事業所になってほしい」と、塾生へのメッセージで、たまねぎ栽培塾を終了しました。

心から楽しい農業は実践できる！ 自然栽培の可能性を再確認。

自然栽培パーティ
全国フォーラム 2023
in 金沢

自然栽培に取り組む仲間が、日々の経験を共有するとともに、より深く学ぶ場「全国フォーラム2023」が、12月15・16日の二日間にわたり金沢で開催されました。



農福師の表彰をされたみなさんと木村秋則顧問

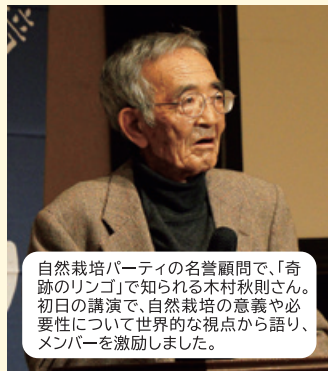


グループワークで仲間の悩みや苦勞を共有した、全国フォーラム

活動の ステップアップを目指して

2016年から毎年開催されている「全国フォーラム」。8回目を数える今回は石川県のホテル金沢に、「自然栽培パーティ」の仲間や、その活動に関心を持つ一般の方々が総勢100名以上、全国より集まりました。

自然栽培パーティは、無農薬・無肥料の自然栽培に障がいのある人たちとともに励む125の団体・個人が参加。全国で問題となっている休耕地の活用にも一役買っています。これまでの全国フォーラムでは、取り組みをよく知ってもらいたい仲間



自然栽培パーティの名誉顧問で、「奇跡のリンゴ」で知られる木村秋則さん。初日の講演で、自然栽培の意義や必要性について世界的な視点から語り、メンバーを激励しました。



持続可能な未来への役割

輪を広げることには主眼を置いてきました。今回は趣を変え、メンバーのさらなるパワーアップを狙って、円卓を囲むグループワーク中心のスタイルに変更。各地でいち早く成果を上げている7グループのアドバイスを元に、ふだんの苦勞や悩みごとについて、活発な意見交換が行われました。

グループワーク以外にも初日には、2022年に公開されたドキュメンタリー映画「種まいて水やって自然栽培パーティ！」を特別上映。恒例となった「自然栽培パーティアワード」では、功績や成長のあった農



全国フォーラム2023in金沢のオープニング

福師農業で楽しく働く利用者が表彰され、目頭を熱くする参加者も多く見受けられました。

2日目は「日本資本主義の父」と称される澁澤栄一氏のひ孫にあたる澁澤寿一氏の講演も。寿一氏は農学者でNPO法人「共存の森ネットワーク」の理事長をされています。近年暴走を始めている資本主義に疑問を示したうえで、「人類と地球の共存」が大切だと力説。持続可能な社会のために、自然栽培パーティが担える役割について語られました。交流会も含め、参加者全員が気持ちを高め合い、明日につづくノウハウを共有する貴重な場となりました。



(株)しまむら／総合衣料品販売の国内最大手。北は稚内から南は石垣島まで、ベビー・子供用品を専門とする「バースデイ」など、6つのブランド事業で国内外にグループ約2,200店舗を展開。ダイバーシティに熱心で、2023年2月現在703名の障がい者を雇用しています。



川上さんが担当する紳士・キッズ売り場で、東家店長(左)と川上さん(右)

お客様に感謝されるのが一番！ 商品管理から売り場づくり、接客もお任せ。

接客の面白さに惹かれて、アパレル小売業の門を叩いた川上さん。人を育てる「しまむら」の職場風土のなかで、いきいきと自分の能力を売り場に注いでいます。

■社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

川崎競馬場隣接の大型ショッピングモール内の「しまむら」で、2021年から勤務しているのが川上翔さんです。「やるのがいっぱいで大変ですけど、楽しいです。できるところはどんどん任せるといふ感じが『しまむら』なんです(笑)」。なんと、川上さんは同店の紳士とキッズの部門を一人で担当しているのだそう。店長の東家市郎さんに伺いました。「商品部からの陳列指示に沿って新商品を店に出したり、値下げ指示が出た店頭商品のピッキング、他店へ回す商品の出荷だったり

相談したり意見の言いやすい、互いに助け合える職場が楽しい



検収のあとは品出し



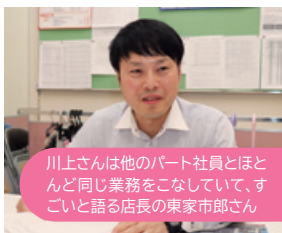
納入された商品を確認する検収作業にバックヤードで励む川上さん

川上 翔さん 株式会社しまむら(2021年12月16日入社)

スワン在籍時から、後輩を気に掛けるなど、気が回るタイプの川上さん。任された仕事には責任とやり甲斐を感じています。休日にはスワンの仲間と小旅行に行くこともあるそうです。



川上さんの提案が掲載された社内報



川上さんは他のパート社員とほとんど同じ業務をこなしていて、すごいと語る店長の東家市郎さん

を中心に、レジ打ち以外すべてやってくれています。売り場づくりの改善提案も、たぶん店で一番、出してくれて...川上さんの考える売り場工夫の意見は実際、社内報にも取り上げられたのだとか。

かつて靴小売チェーン店でのバックヤード業務の経験がある川上さん。そこで苦手意識があった接客業の面白さに目覚めたそうです。スワン工舎での研修を経て、川上さんが実習先に希望したのが「しまむら」でした。

2年ほど働いてみて「仕事の進め方など、店長になんでも相談できるし、周りの人たちがみんな良い人で、和気あいあいと助け合っで働いている」のが魅力だと川上さん。現在はパート社員として他のスタッフと同様、週5日勤務で年2回の賞与もあります。

「しまむら」は障がい者雇用を継続的に取り組んできました。法定雇用率2・3%を大きく上回って障がい者雇用率は4・17%。障害者職業生活相談員の資格を持つ社員も243名を数え、さらなる採用にも意欲的です。

「川上さんたちが接客が苦手な方にはバックヤードでのハンガー掛けなど、それぞれの方に合った業務が必ずあります。興味のある方は声を掛けてください」と東家店長。

「忙しくても丁寧な接客を心がけ長く働きたい」と、川上さんは考えています。

※2023年2月現在

YWF TOPICS

全Aネット就労支援セミナー in下関 A型のあるべき姿とは？

2023年10月14日

10月14日、山口県下関市で「A型のあるべき姿とは？」と題して、全Aネットの就労支援セミナーが開催されました。来賓として「このセミナーの情報を、明日からの活動に役立てて欲しい、Afterコロナで環境も変わっていき中、みなさんも進化進歩されるようお祈りします」と当財団山内理事長が挨拶。

最初のプログラムは厚生労働省福岡労働局長の小野寺徳子氏が、A型の雇用の現状、雇用率の変化、求職の状況、労働時間の柔軟化等々、元厚生労働省の障害者雇用対策課長で、A型に関連する制度等に関わってきた経験から「これからのA型に期待する姿」というテーマで講演を行いました。

次に、朝日雅也氏(埼玉県立大学名誉教授)と関原深氏((株)インサイト代表取締役)が、利用者の支援ニーズについて行った調査結果を分析しながらの対談です。利用者に応えるには経営力と支援力の両輪が必要であることなど、A型の持つ本来の意味や働き方について議論を深めていきました。

続いてパネルディスカッションが行われ、セミナーの最後に優良A型事業所認定の9事業所が発表されました。



農福連携実践塾

たまねぎ栽培塾第2期生募集中!!

2月29日
べ切り!!

志を同じくする塾生と、栽培技術を学びあい、施設の作業内容や事業運営のしくみを見直し発展させることで、みなさんの夢と利用者さんの夢を叶えていきませんか

開講期間：2024年6月～2025年6月(4回開講)

募集人員：12名程度

参加費：無料(交通費宿泊費全額財団負担)

応募方法：エントリーシートと実践塾参加の抱負を下記アドレスに提出

提出期限：2024年2月29日(木)17時まで

請求先・提出先/お問い合わせ先：

メールアドレス(応募書類請求先・提出先)

satoshi@yamatoofukushizaidan.or.jp

公益財団法人ヤマト福祉財団

農福連携実践塾事務局 渡辺宛

TEL.03-3248-0691 FAX.03-3542-5165



ヤマト福祉財団奨学生Zoom懇談会 社会で活躍する奨学生の先輩と気になる事、 気軽に話そう

2023年11月25日

ヤマト福祉財団の助成事業に、障がいのある大学生への奨学金(月額5万円・返済不要)の支給があります。初めての試みで奨学生の懇談会をオンラインで実施しました。参加者は現役の障がいのある大学生17名、卒業生3名。卒業生は、民間シンクタンクや、一般企業で活躍されています。

懇談会では自己紹介をはじめ、現役の奨学生が卒業生の先輩に、「就職活動で大変だったこと」や「大学院進学」、「具体的な就職試験、面接」について等々、たくさんの質問もありました。先輩のみなさんからは丁寧に、リアルな情報をお話しいただき、あつという間に終了時間に！懇親が深まり、これを機会に、奨学生のネットワークが広がっていきそうです。

JDF全国フォーラム

障害者権利条約「総括所見」を受けた 取り組みと課題

2023年12月6日 オンライン開催

障害者週間の12月6日、JDFの全国フォーラムがオンラインで開催されました。

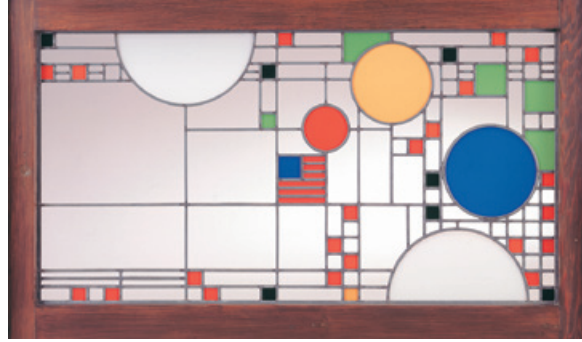
1年前に国連障害者権利委員会から日本政府に出された総括所見。そこに記載されている「障害の人権モデル」と、「障害の社会モデル」との関係や考え方について、アンハラッド・ベケット氏(英国・リーズ大学)が基調講演を行いました。その後のパネルディスカッションでは、それぞれの地域や専門分野で活動するパネリストの実践・経験を共有しながら、権利条約実施に向けての課題や取り組みについて、意見や情報を交換。最後にJDFの竹下副代表が「権利条約が批准して10年。権利条約の完全実施に向けての働きかけ、社会を変える原動力となるよう、私たちの新しい行動提起が今日からスタートしたという思い」というメッセージで、フォーラムが終了しました。



フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築



《フランク・ロイド・ライト、タリアセンにて》
1924年、コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイブズ蔵



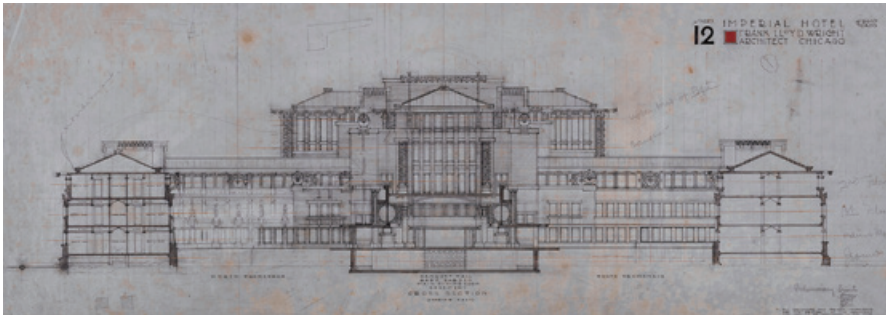
フランク・ロイド・ライト《クーンリー・プレイハウス幼稚園の窓ガラス》
1912年頃、豊田市美術館蔵



フランク・ロイド・ライト《第1葉 ウィンズロー邸 透視図》
『フランク・ロイド・ライトの建築と設計』1910年、豊田市美術館蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | AveryArchitectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)



フランク・ロイド・ライト《ジョンソン・ワックス・ビル本部棟 中央執務室の椅子》
1936年頃、豊田市美術館蔵



フランク・ロイド・ライト《帝国ホテル二代目本館(東京、日比谷)第2案 1915年 横断面図》
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイブズ蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | AveryArchitectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

DATA

開催期間 ▶ 2024年1月11日(木)～3月10日(日)
休館日 ▶ 水曜(ただし3/6は開館)
開催場所 ▶ パナソニック汐留美術館
アクセス ▶ JR新橋駅(汐留口・銀座口・汐留地下改札)より徒歩約8分
東京メトロ銀座線 新橋駅(2番出口)より徒歩約6分
都営浅草線 新橋駅(JR新橋駅・汐留方面改札)より徒歩約6分
ゆりかもめ 新橋駅より徒歩約6分
都営大江戸線 汐留駅(3・4番出口)より徒歩約5分
開館時間 ▶ 10:00～18:00
※2/2(金)、3/1・8(金)、3/9(土)は夜間開館(～20時)を実施
※入館は閉館30分前まで

観覧料 ▶ (税込)

一般	65歳以上	高大生以上
1,200円	1,100円	700円

※障がい者(障がい者1名につき介護者1名含む)は無料
※学生ならびに、障がい者手帳をお持ちの方は、いずれか証明できるものをご提示ください

主催 ▶ パナソニック汐留美術館、フランク・ロイド・ライト財団、東京新聞
後援 ▶ アメリカ大使館、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人DOCOMOMO Japan、有機的建築アーカイブ、港区教育委員会

およそ四半世紀ぶりの本格的な回顧展!

■ 帝国ホテルから迫るライトの全貌

アメリカ近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライト(1867～1959)。8つの建築作品が世界遺産にも登録される、20世紀のモダニズム建築を牽引した世界的な建築家の一人です。工業化と科学技術が大きく進展した時代にあって、人の生活(建築)と自然環境との調和を図る「有機的建築」を提唱しました。

生涯で500近い建築を残し、そのほとんどが米国での作品である一方、日本にも深いゆかりを持ち、いくつかの建築を残しました。その一つが、初期の集大成でその後の転換点となった「帝国ホテル二代目本館」です。

5万点を超えるライトの資料を元に進められている調査研究の近年の成果を踏まえた本展では、1923年の「帝国ホテル二代目本館」竣工から100周年となる節目にあわせ、帝国ホテルを基軸に7つのセクションから、ライト建築の秘密に迫ります。

■ 見どころ満点な多彩な展示

本展はおよそ390点もの資料・写真を駆使して構成されており、中でもライト肉筆の建築ドローイングは日本初公開の貴重なもの。浮世絵の愛好家としても著名だった彼の精緻で華麗な筆致は必見です。

また100年前に製作された帝国ホテル模型を、最新の3Dスキャン技術を用いて精巧に複製したほか、会場ではバード邸(マサチューセッツ州、1940年)をお手本とした原寸モデル(一部)も再現され、ライトの建築空間を体感することができます。

多様な文化と交流し、グローバルなデザインを紡いだライト。その先駆的な仕事は、現代においても強いメッセージを放っています。ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

前期・後期で一部展示替えがあります

前期 1.11(THU) ▶ 2.13(TUE)

後期 2.15(THU) ▶ 3.10(SUN)

※後期の再入場では半券の提示で100円割引になります

特別協力 ▶ コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館、株式会社 帝国ホテル
助成 ▶ 公益財団法人ユニオン造形文化財団
展示協力 ▶ 有限責任事業組合 森の製材リソラ
会場構成 ▶ 佐藤熊弥(tandem)
※この展覧会は、フランク・ロイド・ライト財団の協力のもと開催されます。
問い合わせ先 ▶ 050-5541-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式サイト ▶ <https://panasonic.co.jp/ew/museum/>
巡回情報 ▶ 青森県立美術館 2024年3月20日(水)～5月12日(日)
※出品作品の一部異なる場合があります。

スワンのケーキ販売にご協力いただき、ありがとうございました!!

スワンベーカリー25周年のスペシャルケーキはご賞味いただけましたでしょうか。おかげさまで昨年12月に販売したクリスマスケーキは88,000個になりました。ヤマトグループのみならず、ご協力に感謝申し上げます。これからもみなさまに喜んでいただけますよう、スタッフ一同心を込めて邁進して参ります。お近くのスワンをどうぞよろしくお願いたします。



株式会社スワン

つたわるフロント

読みやすさを追求した書体

